

第15回市民談義所で出た意見に対する事務局の考えと技術分科会資料との対応【宮崎海岸侵食対策(案)を進める上での配慮事項について】

整理番号	意見(<>内は談義中の補足、[]内は事務局補足)	事務局の考え	技術分科会との対応
施工順序			
1	大炊田最優先に。とにかく早急に。		
2	突堤工事も早急に対応してほしい。	<input type="checkbox"/> ご指摘のように、住民の安全を早期に確保することを考えて、年度内着工を目指し、応急対策を実施していきたいと考えています。	
3	養浜にもかぎりが有ると思います。一部着工のみです<試験施工を大至急やってもらいたい>	<input type="checkbox"/> 現在、他海岸で試験施工の実績があるサンドバックについて、次の通り宮崎海岸で試験施工が実施される予定です。 ・平成23年度に、海岸保全施設として新たに開発中の技術であるサンドバック(砂袋)を用いた護岸の可能性について、国土政策技術総合研究所と民間企業(自費)が検討を進めていく予定です。 ・その結果も踏まえ、宮崎海岸への適用性について、事業主体が総合的に判断する予定です。	サンドバックについて 第7回技術分科会、資料7-3、P.36～P.37 施工順序の検討について 第7回技術分科会、資料7-3、P.39～P.46をご参照ください。
4	サンドバック工法と突堤と試験を早くお願いします。		
5	試験的工法を実行して下さい<実行した結果を見てみたい>。		
6	早くお願いします。自然災害ではなく台風の影響が考えられるので、それに合わせた工法をお願いします。		
7	台風による侵食が大きいので、波の大きさ、風の強さのシミュレーションを行って、砂の流れ確認し侵食対策を行ってほしい。	<input type="checkbox"/> 突堤設置に伴う地形変化については、シミュレーションを実施しています。 <input type="checkbox"/> なお、海岸で生じる自然現象は複雑であり、シミュレーションで把握しきれない事項もありますので、現地でモニタリングしながら対策を進めていきます。	シミュレーションの実施について 第6回技術分科会、資料6-4、P.77～P.96をご参照ください。 施工順序の検討について 第7回技術分科会、資料7-3、P.39～P.46をご参照ください。
施工方法			
8	施工：潮の満ち引きも含めた川のの流れを取り戻す施策も必要。<石崎川の河口閉塞をイメージして、それが流れれば川から砂が補給できるのではないかと>	<input type="checkbox"/> 河川からの流入土砂の増加等は、自然の力による砂浜の回復・維持を目指した様々な取り組みを、関係機関と連携のうえ中長期的に検討していきます。	河川からの流入土砂の増加の方針について 第9回委員会、資料9-II(1) P5～8をご参照ください。
9	<コストを抑えて対策してほしい>	<input type="checkbox"/> 経済性については、十分に考慮します。	経済性について 第7回技術分科会、資料7-3、P.16～P.19 P.20～P.22 P.23～P.25 P.29～P.37をご参照ください。
環境			
10	サンドバックの上の養浜が流された場合、ウミガメの産卵は？		—
11	ウミ亀を守る施行法		
12	<ウミガメに配慮した養浜とするなら、砂の厚さが60cm以上必要。10cmで良いというものではない>		隠し護岸の具体的な構造の検討について 第7回技術分科会、資料7-3、P.29～P.37をご参照ください。
13	養浜の砂(土砂)では、ウミガメは産卵できないので、養浜で浜に置いた土砂は必ず波が一度持っていくような計画にしてほしい。	<input type="checkbox"/> 環境に係るご意見については、技術分科会、委員会でしっかりと議論できるよう報告します。	—
14	人間以外の動植物への影響について。アセスメント[アセスメント]をやるのか。<工学中心のため動植物の議論があまりなく、それらも議論してほしい>	<input type="checkbox"/> なお、環境アセスメントについては、海岸事業が環境アセスメントの対象事業ではないため、法や条例に基づいて実施しませんが、それに準じた形で、これまで平成19年度より環境調査を実施してきたところです。	—
15	<ぜひ委員会で環境についてもしっかりと議論してもらえよう伝えてください>		—
16	<環境に関して、砂をつけることが重要で、その評価に関してアカウミガメとコアジサシの生息地になり得るか、植生が自生するか、保安林が保全されるかという点が大事だと思う>		—
17	数日前の宮日に、植生が津波被害をやわらげるという研究記事がある。森林はきらないで。津波の最後のとりで。		—
利用			
18	砂浜に「突堤立入禁止」の立札は立てないでほしい。<立ち入りの可否ではなく、景観の問題として。立てるとしても工夫してほしい>	<input type="checkbox"/> 海岸利用に関するルールや利便施設の整備については、今後関係機関と連携・調整しながら検討していくこととなります。	—
19	トイレ設置もついでに		—
構造			
20	突堤の高さは干潮のときは出る(浮島)にする。満潮時は沈む。		第7回技術分科会、資料7-3、P.9～P.13をご参照ください。
21	突堤は岩石で造ってほしい。		第7回技術分科会、資料7-3、P.20～P.22 P.23～P.25をご参照ください。
22	突堤については、延伸の状況を確認し、砂が十分についたら、<岸側の50m程度を>沖側へ流用する構造にして欲しい。	<input type="checkbox"/> 突堤の規模や素材等は、砂の移動を抑えるという施設の機能の確保と、波に対する安定性が必要になります。その上で、ご意見については、今後のステップアップに向けたアイデアとして参考にさせていただきます。	第7回技術分科会、資料7-3、P.23～P.25をご参照ください。
23	突堤は砂浜が流れ出ないように、<流出元の>砂浜(部分)に作ってみてはどうか？		第7回技術分科会、資料7-3、P.4～P.8をご参照ください。
24	<ウミガメが上がりやすいように>護岸については前面の勾配を出来るだけなめらかにしてほしい	<input type="checkbox"/> 隠し護岸は養浜で覆うこととなりますが、昨年度の動物園東で実施した後浜養浜にウミガメが産卵していることから、それらの実績も考慮して養浜形状を検討します。	第7回技術分科会、資料7-3、P.29～P.37をご参照ください。
25	取り返しができる対策<ブロックのように塊で動かせるように>	<input type="checkbox"/> ご指摘のような状態にならないように、モニタリングの実施とその検証をしっかりと行い、構造に反映させていただきます。 <input type="checkbox"/> 大きな悪影響が生じ、費用をかけてまでも撤去の必要性が客観的に認められた場合は、撤去も一つの選択肢としてステップアップサイクルの中で検証していきます。	第7回技術分科会、資料7-3、P.16～P.19 P.23～P.25 P.29～P.37をご参照ください。
26	木材による積砂工法。木工沈床。小碎石サンド。	<input type="checkbox"/> 木材は、海岸で使用するには安定性・耐久性への検証が現時点では不十分であり、現時点での採用には問題が残ります。今後、安定性・耐久性等が確認できればステップアップサイクルの中で検証していきます。	市民提案工法について 第9回委員会、資料9-II(1) P13をご参照ください。 第7回技術分科会、資料7-3、P.35をご参照ください。
27	<養浜とあわせて>杉の間伐材利用。日本伝統技術。軸組工法。砂抄工法。		

第15回市民談義所で出た意見に対する事務局の考えと技術分科会資料との対応【宮崎海岸侵食対策(案)を進める上での配慮事項について】

整理番号	意見(<>内は談義中の補足、[]内は事務局補足)	事務局の考え	技術分科会との対応
28	<護岸・突堤を含め網にかからないように>漁業に配慮した材料にすべき。	<input type="checkbox"/> 材料について、漁業者とも相談のうえ検討を進めていきます。	第7回技術分科会、資料7-3、P.23～P.25 P.29～P.37をご参照ください。
29	砂浜に黒いサンドバックを並べる工法は、世界の海岸では浜がみにくくなると不評。<隠れていけば問題ないが、最近砂で隠れている護岸を見かけない>	<input type="checkbox"/> サンドバックは、波で露出した後なるべく養浜で覆う計画としています。	隠し護岸の具体的な構造の検討について 第7回技術分科会、資料7-3、P.29～P.37をご参照ください。
30	<隠し護岸のサンドバックについて、砂と袋だけでは水が抜けるため、南九州の特殊土壌との組み合わせも検討してはどうか>	<input type="checkbox"/> サンドバックについては新たな技術であり、今後検討が進んでいくことから、実験を実施する国総研にも伝えます。	
モニタリング・ステップアップサイクル			
31	隠し護岸の背後の浜崖と松林が削られると、隠し護岸が「隠される」程の砂が浜へ供出されることになるが、そういう侵食は容認してほしい。<たとえ浜崖の高さが多少低くなくても、長期的には砂丘として回復させるという考え方>	<input type="checkbox"/> 浜崖が侵食され砂丘の高さが低くなっていくことは、背後地への越波・浸水被害の可能性が高くなるため、容認できません。ただし、砂丘の高さを守りつつ、護岸を覆う養浜について工夫する方法を検討していきます。	第7回技術分科会、資料7-3、P.48～P.51をご参照ください。
32	隠し護岸(サンドバック)の試験をしてみて、あまり効果が見られないなら撤去(袋を破って砂を出す)してほしい。	<input type="checkbox"/> サンドバックの現地実験は国総研が実施するため、実験終了後の取り扱い、今後、国土交通省と国総研が協議の上、決定していくこととなります。	
33	突堤(人工的)を作ることで他にしわよせがくるのではないかと例えば、他に侵食される場所がでてくるのでは？<副作用の懸念>	<input type="checkbox"/> 地形変化シミュレーションによると、ある程度、突堤が整備された段階で、突堤の南側は侵食傾向になる結果となっています。 <input type="checkbox"/> ただし、室内実験ではそのような現象が確認されていない他、現在、突堤の南側は離岸堤が設置され、ほぼ目標浜幅が確保されています。 <input type="checkbox"/> また、局所的な土砂の移動は、どうしてもシミュレーションで表現出来ないことから、モニタリングで効果・影響を確認しながら、対策を進めていこうと考えています。 <input type="checkbox"/> なお、突堤の南側に、粒径が大きく移動しにくいレキ養浜を実施するなどの対策を行うことで、副作用を抑える効果があることはシミュレーションで確認しています。	第7回技術分科会、資料7-3、P.4～P.8 P.48～P.51 をご参照ください。
34	突堤を2ヶ所(レストハウス、大炊田海岸)に設ける。規模は案の半分程度とする。 <レストハウス前の規模を半分にして、大炊田へ>	<input type="checkbox"/> 侵食対策(案)は、大炊田海岸においても目標浜幅50mの確保を地形変化シミュレーションで確認していることから、今後、モニタリングにより効果・影響を確認したうえで、必要があれば対策の見直しを検討するよう考えています。	
35	養浜を小丸川の上流砂の使用ではなくて、港湾内にたまった砂を使用する方法を確立してほしい。(本来海にあるべき砂で)	<input type="checkbox"/> 港湾内の堆積土砂については、今後とも関係機関との連携の中で、養浜材としての活用を検討していきます。	
36	一ツ瀬川河口海域に堆積している土砂を利用する(3～5m水深)<現在の浚渫箇所よりもっと沖側に砂は溜まっている>	<input type="checkbox"/> 一ツ瀬川河口の沖側に堆積している土砂については、今後とも関係機関との連携の中で養浜材としての活用を検討していきます。	第7回技術分科会、資料7-3、P.48～P.51をご参照ください。
37	突堤施工法に環境破壊の恐れ有り。安全に施工出来る自信が有るのか。	<input type="checkbox"/> 突堤の設置箇所には護岸が整備されているため、基部がえぐれるようなことはありませんが、突堤設置に際しては、環境についてもモニタリングによりその影響を確認していくこととしています。	
その他			
38	突堤は海岸侵食対策には逆効果。 ・実証例からも ・研究からも 突堤が危険であることを無視するのはよくない。	<input type="checkbox"/> 第6回技術分科会および第13回市民談義所の際にすでに回答しているため、そちらを参照ください。	<input type="checkbox"/> 突堤の効果・影響、対策の津波への影響について 第6回技術分科会、資料6-5-2をご参照ください。
39	水の集積効果Greenの法則、レンズ効果などから、突堤は津波を大きくする。宮城県山元海岸でも大きくなった。		
40	突堤工法は、無駄な工法であり避けた方が望ましい。		
41	宮崎港という巨大な突堤がすでにあるが、突堤が効果的ならすでに300mくらい砂がついてる。これに対する反省が先である。すでにある突堤について説明せよ。	<input type="checkbox"/> 第6回技術分科会および第13回市民談義所の際にすでに回答しているため、そちらを参照ください。	
42	宮崎港の突堤撤去	<input type="checkbox"/> なお、そのようなご意見を持っている方がいらっしゃるのには認識していますが、談義所等でこれまで積み上げてきた経緯や地区説明会等を踏まえて、選択肢の中に入れることはできません。	—
43	宮崎港を撤去しない限り、何をしても海岸侵食は進む。		
44	公明正大に全ての有用な研究を参考にし、最も適した工法をする能力が今の行政に欠けているようだ。		—
45	人命を無視した危険な工事に税金を投入するのか(我々は実験動物ではない) 命を優先してください	<input type="checkbox"/> 住民の安全を早期に確保することを考えて、実施していきたいと考えています。	—
46	メッキがはがれるように、脆弁は後世(結果として)あらわになると思われます。後世が載く。(我々の命が失われても)		—
47	動物園東の海岸。浜崖が高く下へおりる所がない。早く対策して下さい。		—
48	住吉海岸動物園東は正月は多くの方が初日の出に来られるので対策をお願いしたい。 <工事が間に合わないと思うので、入れないことの事前周知を>	<input type="checkbox"/> 関係機関と連携・調整のうえ、対策を講じていきたいと考えます。	—
49	関東・東北の現況について、事務局に直接伺います。	<input type="checkbox"/> お待ちしております。	—